

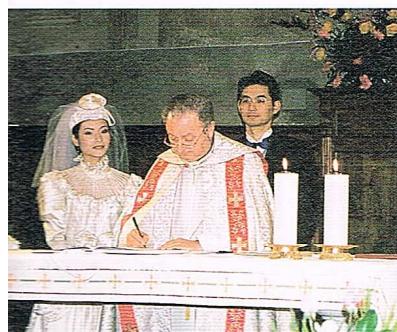
スカーナ地方●Chiase Santa Maria

サンタ・マリア教会

古ながらの伝統を守り続ける
スカーナでも知られた教会



フィレンツェから車で40分ほどの距離にある
シニニアート。自然に恵まれたトスカーナ
小さな町の中心にサンタ・マリア教会はあ
ります。挙式に臨むカップルは、式前日に神
様の話を聞く時間を設けることを条件とし
いる厳格なカトリック教会。それだけに式
プレッシングながら、しっかりと様式を守
れています。象徴であるマリアの絵は、か
て疫病が流行ったときに絵から抜けだし、
民たちを救ったといわれるもの。挙式者に
その複製がプレゼントされます。



たりの誓が終わり指輪を交換
後、神父様が結婚の記録にサイ
します



神父様から手渡される婚姻証明
公式文書ではありませんが、一生の
思い出の記念品となるでしょう



ルネッサンスが生んだ 文化遺産がふたりの式場に

教会のことは教徒でないと理解できない
ことが多いもの。私は自身がカトリック
の信者でもあるため、宗教的な内容も理
解し、結婚講座から挙式当日までフルに
おふたりをアテンドします。神父様のお
話の意味など、どんどん尋ねてください。
またフォーマルの書式を翻訳したり、ヘ
アセットやメイクに立ち会うのも、私
の仕事です。現地情報にも通じているので、
挙式打ち合わせの合間にでも、レストラ
ンやショッピングのことなど、お尋ね下
さい。



吉村和昌 フィレンツェ
フィレンツェの現地スタッフは吉
村和昌。現地生活7年目のベテ
ランで、ヴェッキオ宮殿のウエデ
ィングをはじめ、さまざまな手配
を担当するコーディネーター

結婚講座

誤解されることもありますが、結婚講座はキリスト教への勧説ではありません。

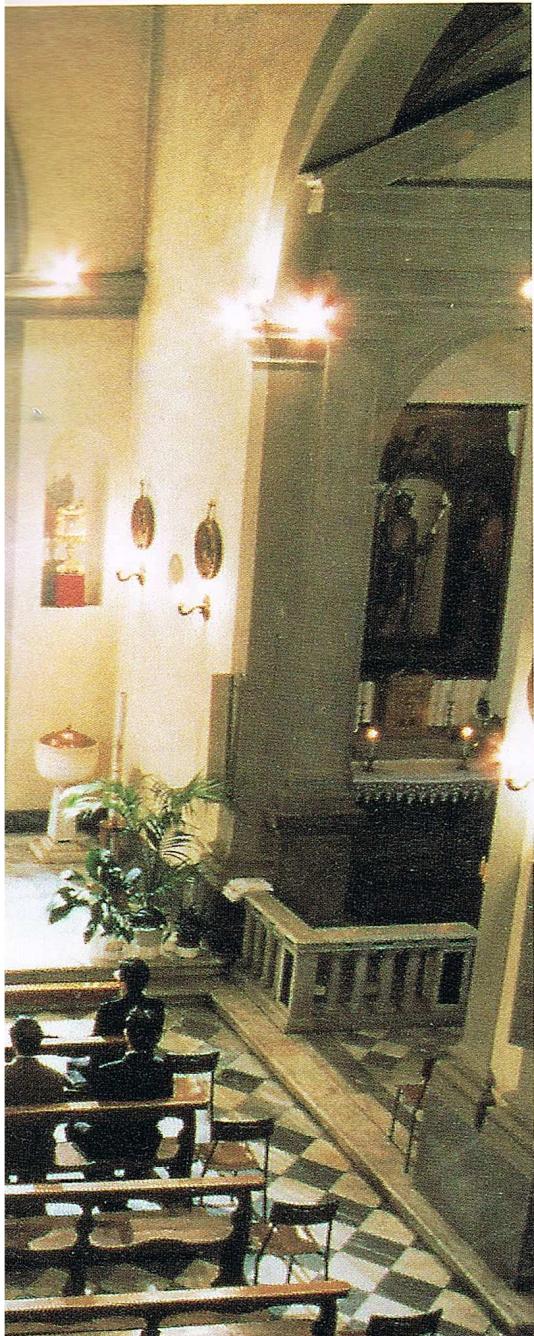
未信者が聖書に基づいた結婚の意味を知った上で、式に望めるようにするための習慣で、厳格なカソリック教会なら、どこでも式前におこなわれることになっています。

おふたりにしても、宣誓の意味を知らないでは結婚を誓うこともできません。挙式のための講座というより、式にふさわしいカップルかを神父様が見極める場と思ったほうがいいでしょう。

実際には挙式前日に約1時間。結婚の意味や教会の由来など、神父様がふたりとお話しする時間です。教会の下見もできるので、好評です。



スタッフが立ち会って、挙式の簡単なリハーサルも行われます。イタリアの由緒ある教会では、式前に結婚の講話がおこなわれるのが一般的です



日本の有名ミュージシャンがお忍びで挙式をしたこともあるというサンタ・マリア教会。トスカーナならではのロケーションも魅力的です



DATA

■催行日 火～金曜
(イタリアの祝祭日・教会行事日を除く)

■基本プランに含まれるもの

- ・貴族の別荘だった「ホテル・ヴィラ・コーラ」ハネムーンスイート2泊
- ・教会使用料 ・装花
- ・式前日神父様による結婚講座(送迎・通訳付)
- ・リムジンによる送迎
- ・生花のブーケ&ブートニア
- ・パイプオルガン演奏
- ・写真撮影(20枚) ・結婚証明書
- ・日本人アシスタントによる式の通訳、サポート
- ・挙式に関する書類の翻訳および手続きの代行

■条件・必要書類

既婚／婚姻届受理証明書



⑩聖ジョバンニの像を前に行うカトリック式の挙式は、奈美さんが憧れていたもの。ただの憧れが、前日講座の神父様のお話で、カトリックへのより深い理解を得られ、式に望むことができました
⑪「幸せになりたいと強く願い、お互いを助け合い、そうありたいと願えば、神様の助けがあるはずです」という神父様のお話は、今後の結婚生活においても、忘れないでおきたいものでした

CEREMONY

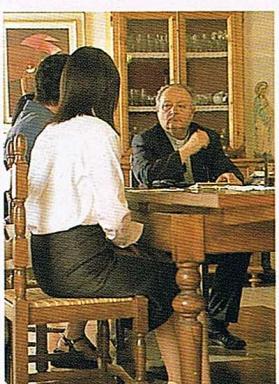
神父様の威厳ある声でうかがう 温かいお言葉にふたりも家族も感動

祭壇の上に描かれた聖ジョバンニの像に見守られる挙式。
神父様に導かれて、神聖な儀式が始まります。
神父様がお話される言葉を一つひとつかみしめながら、
式の厳粛さを胸に刻みます。
「この指輪を私の愛と忠実のしるしとしてお受け取りください」
とふたりの愛の象徴である指輪を交換し、
カトリックの最高の言葉、「父と子と精霊の御名によりて」と誓った時、
ふたりは至福の瞬間を感じていました。



10

CLOSE UP



前日講座で伺うお話で より深く胸に残る神父様のお言葉

前日講座では神父様から大切なお話を聞いていただきます。挙式とは神の前でふたりが「生涯変わらぬ愛と忠誠をお互いにつくす」という誓約を交わすもの。信者にとっては洗礼から始まる儀式の一つで、信者であっても挙式前に済ませなければならない儀式があります。未信者の場合は、信者のものとは違う祝福の儀式ですが、聖書に基づいた結婚観を心得た上で挙式に望むのは当然の事です。また、神父様は挙式で朗読されるお話の意義についても触られます。旧約聖書の雅歌からは「男女同じように相手を思いやる」こと、使徒パオロのコリント人への手紙からは「物に満たされても愛がなければ、何もないのと同じ」ということ、福音書からは「何人への愛を忘れずに。ふたりの愛があるところに神の愛がある」といった意義を教えていただきます。挙式の説明だけを受けるのではなく、神父様の有意義なお話は結婚後のふたりの生活に役立てていけるものです。

⑫イタリア語で結婚指輪は「fede（フェーデ）」。忠実という「fedele（フェデーレ）」より由来するもの。お互いの忠誠を指輪に込めて誓います ⑬神父様の見守る中、証明書へ署名 ⑭マリア様の木像も静かにふたりの新しい門出を祝福してくれます。愛あふれるまなざしに、感動



12

13